

## 第2回 “となみ創生”まちづくり委員会 議事録

日時：平成27年9月15日（火） 午後3時～5時

場所：砺波市役所3F「大ホール」

### 出席者（18名・敬称略）

氏名	役職等	(区分) 分野
安念 邦夫	市民公募	(住民) 公募
梅本 恵子	有限会社梅香園	(住民) 食育・地域
燕昇司 勇夫	株式会社東般若利用組合 代表取締役	(住民) 農業
雄川 勉	JA となみ野特産振興課長	(産) 農業
金田 卓也	砺波金融協会会員（富山銀行砺波支店長）	(金) 金融
河合 要子	KO・RA・RE 代表	(住民) 観光
北村 将人	となみ青年会議所専務理事	(住民) 地域
得能 英紀	砺波商工会議所常議員	(産) 商工
田邊 雅貴	アナウンサー	(言) 報道
中條 純子	高岡法科大学准教授	(学) 教育（学識経験者）
南本 宗憲	市民公募	(住民) 公募
早崎 富士夫	市民公募	(住民) 公募
堀田 泰弘	砺波工場協会会長	(産) 工業
室永 美穂	NPO 法人 SEIBU スポーツクラブ理事長	(住民) 体育
柳瀬 恵子	砺波市社会福祉協議会地域福祉課主査	(住民) 福祉・ボランティア
吉田 直子	NPO法人さくらの家矢木代表	(住民) 福祉
吉田 直人	市民公募	(住民) 公募
横川 達乃	砺波市男女共同参画推進員連絡会副会長	(住民) 男女共同

### 欠席者（2名・敬称略）

飯田 明恵	砺波市母親クラブ連合会副会長	(住民) 女性・子育て
伊藤 仁嗣	砺波農業者協議会青年農業士部会副部長	(産) 農業

### 市側出席者

横山企画総務部長、島田企画調整課長、河合主幹、井口主事、宮本主事

### 資料等

- 1 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 委員長挨拶
  - (3) 議事
    - ① 砺波市人口ビジョン（素案）について
    - ② 砺波市総合戦略（素案）について
  - (4) 閉会

## 2 配布資料

- ・資料1 砺波市人口ビジョン（素案）について
- ・資料2 砺波市総合戦略（素案）について

（添付資料）

- ・資料3 アンケート結果（分析後）
- ・資料4 委員各位からの意見・提案事項

1. 開会あいさつ	
	・開会宣言
得能委員長	・本日は2回目です。本日も総合戦略について忌憚のないご意見をいただき、我々の意見がどこかに活かされていくように協議していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
2. 協議事項	
事務局	（資料1 砺波市人口ビジョン（素案）」について説明）
得能委員長	・人口ビジョンにつきましては、アンケートを見る限り大変細かく地区毎に分けられていて考えさせられる部分がある。山間部では、かなり高齢者増えてきていることがわかりました。これらにつきまして皆様のご意見をいただきたい。
委員	・アンケート調査結果はその通りの結果であると思うが、市民アンケートで40歳代が男性57件に対し、女性99件と女性が圧倒的に多く、サンプルとして偏りがありすぎる。正確な調査を行うためには、対象者の基数を配慮してほしい。
事務局	・無作為抽出のため、もともとはほぼ男女半々で抽出されたと思うが、女性の方が回収率が高く、このような結果になったと考えられる。今後、男女別、年齢別の分析結果に注意していきたい。
得能委員長	・では、事務局より「砺波市総合戦略（素案）」についてご説明願います
事務局	（資料2 砺波市総合戦略（素案）について説明）
得能委員長	・総合戦略の基本目標として4つの柱を打ち出しました。この4つの柱に沿って戦略を進めていきたいと思っております。 ・1. 産業を育み、安定した雇用を創出する仕組みづくりについて、ご意見をいただきたい。
委員	・先日パワー博が行われたが、採用に関して企業側からの意見としては、地元の魅力のある企業が少なく、企業数や仕事はあるが、中小企業が多いということです。中小企業がいきなり大企業になることはなく、企業誘致ができれば働く人の付加価値は高まるが、企業側からみると、大企業が来ると地元の企業が疲弊してしまう問題がある。 ・砺波は勤勉な人が多く、共働きで一家としては、そこそこに生活できる収入があり、悪い環境ではないと思う。 ・4つの戦略ですが、一番目指すべきなのは、基本目標3の結婚支援や産み育てたいまちづくりであり、一番上に持ってくるべきではないか。思い切った子育て支援を掲げて、それを実現できるような仕組みづくりが大事ではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標3が一番難しいのではないかと。行政の力だけで実現するのは難しく、5年後に総合戦略の結果として求められることもあり、一番の目標に掲げるのは厳しいと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルTVとやまで番組を持っているが、司会のパートナーの女性が結婚・出産を控え番組を卒業された。女性は、出産、育児で仕事を休むまたは辞めなくてはならない環境にある。</li> <li>・砺波市に人を流入させる思いがあるなら育休や産休がとりやすい環境づくりが必要である。砺波市では3世代同居が多く、安心して子供を祖父母に預けられるという利点がある。女性もバリバリ働ける環境で、女性の力を借りて発展できることを示していける地域であると思う。</li> <li>・学校について、自分が小学生の時、地元の小学校が統合して庄東小になったが、反対運動があつて半年ほど別にプレハブ小屋で授業を受けていた児童がいた。親には地域で子どもを育てていきたいという考えがあり、統合によってその梯子を外されるという不安がある。小規模でも1クラスでも良いから地域に小学校を残して、地域で子どもを育てる施策を検討してほしい。</li> <li>・砺波市では3世代同居も多いので地域で子供達を育てていけるということは大きなセールスポイントになる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業では地元の高校に求人を出しているが、子どもではなく親が進路先を決定することが多く、地元の中小企業より大企業を選ぶ傾向にある。産学官が連携を図り、地元の雇用創出を行っていくべきだと感じている。</li> <li>・地域コミュニティや祭りの継承においては、市外からの転出者が煩わしさを感じるのか参加する人が少ない。転入された方へ地域の魅力を伝えていく必要がある。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容についてはもっともだと思うが、取組みについての発信が少ないのではないかと。砺波の生活に満足しているが、もし困ったことが起きたとき、どこに頼れば的確な答えが返ってくるかなど、仕組みがわかりにくい。</li> <li>・今ある良いところに自信を持ってアピールし、伸ばしていくことに力を注ぐということを目指すと良いのではないかと。</li> <li>・発信元と受け手がマッチしているかも疑問である。</li> <li>・祭りも人が羨むくらい元気に、自信を持って楽しむことで、色々な人を巻き込むことに繋がっていく。大きな目標はもちろん大事だが、一つ一つの単純なことも大事だと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砺波市でこんな取り組みをするべきだと考えていたことが、総合戦略（素案）にはすべて網羅されているように思う。アンケートを基に新しいことに取り組むことも大事だが、現在ある施策を全てうまく機能させていけば、人口は5万人でも6万人でも達成できるような計画だと思う。</li> <li>・現在ある施策の一つ一つが周知されているか疑問である。例えば、ファミリーサポートセンターなども知られていない。機能すれば素晴らしい施策をどう実現し、周知させていくかが大切である。施策や取り組みをもっと広報発信し、実際利用してもらい、利用した人の声を拾うことが大切ではないかと。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人が働ける農業の仕組みづくりが必要で、農業の実態をわかってもらい伝えていくことが必要である。働く上での不安要素やリスクをサポートしていくことが重要なポイントである。</li> <li>・県では、今年から農業サポート支援センターを開設しているが、このような取り組みを拡充し、若い人の定住につなげていくことが大事である。</li> <li>・農業には、若い時にはわからない、歳を重ねるごとにわかる魅力があり、暮らしを支え、生活を安定させるうえでも魅力のある産業だと思う。</li> <li>・富山は米のイメージが強いが、米以外の色々なものにも挑戦し、取り組んでみたいという声も聞く。若い人の発想力を否定せず拾い上げてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットによって、全国に発信できる時代です。人口が減っている中で、県内からの転入を図るのではなく、全国から転入を図ることが必要である。砺波市は、住みよさランキング8位、持ち家率1位である。持ち家のなかには空き屋もある。空き家を活用して3~6ヶ月、体験型による定住サポートを行い、砺波の魅力を発見してもらい、1人でも定住したいと感じてもらえるような施策を考えてほしい。そのためには住まいの斡旋、提供が必要となるが、県外から転入してもらうための一つの案である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のところの農業経営体には若い人が多いが、若い農業者を育てていくには経費もかかり、経営とのバランスが難しい。就職希望者は多いが、断っている状況であり、どうしたらうまく採用できるか悩んでいる。</li> <li>・食育については、親子で野菜の苗植えや収穫を行っているが、そこに独身の人にも参加してもらい、砺波での子育ては魅力だと感じてもらいたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の関東東北の豪雨被害をみると、庄川が果たして本当に安全なのか知りたい。</li> <li>・年間男女で35人増えれば4万人がキープできるが、子どもを産む女性がいないと不可能であり、子どもを連れて若者が戻ってきてほしい。子育てしやすい環境は当たり前で、例えばシングルマザーを支援したり、砺波市だけでは難しいかもしれないが夫婦別姓を推進したりしてはどうか。県外や大都市へ行っている若者を戻すような施策が必要である、チューリップ公園や体育センターなど公共施設が充実しており、利用しやすいようにすることが大切である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目立ったことや尖ったことをしないと注目されない。いろんな自治体もやっているのに埋もれてしまう。大都市にあって砺波市にないものは何かを考えると、移動手段である。高齢者も移動手段に困っており、図書館など、ドアtoドアで手軽な移動手段や自然と集まって話せる公園のような場所があれば良いと思う。提案させていただいた「お手頃お手軽タクシー」は、高齢者のみならず、子育てや地域経済の活性化、ひいては人口減少を抑制することにもつながる。実質的なコンパクトシティの実現を目指してほしい。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家では小さい頃、チューリップや大門素麺、米を作っており、20代の頃親を継ごうとしたが、衰退産業だからと断られ、後で手放すことになった。高齢化でチューリップや大門素麺、米を作る人が少なくなっている。</li> <li>・アンケート結果や総合戦略はもともとだと思うが、もともとの魅力に力を入れることにより雇用の創出や魅力の発信につながると思うので、PRにより後継者を募集してはどうか。空き家を無料提供するなど、マイナスをプラスに転じられるよう考えてほしい。</li> <li>・グリーンカーテンやエコバッグなども誰かが音頭をとるとついてくる。これは砺波市民の気質だと思うので、うまく利用してほしい。また、庄川を利用したボート下りなど観光ボランティアなど、積極的にNPO支援を進めてほしい。</li> <li>・元気で自立した高齢者が増えればと思うので、歩いて行ける場所に図書館や美術館など年老いても暮らしていける住みやすい砺波市であってほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画の活動はここ10年活発化しており、男女格差の問題もあるが、女性の力を活かしていくことが必要である。市民が自覚を持つことが必要であり、この通り進めていっていただければ良いと思う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会の立場として、KPIをこうしたらよいというご提案を後でさせていただきたい。地域の支え合いを強めることが大事であり、元気な高齢者の活用が必要である。障害者を持つ家族や子育て中の家庭はなかなか仕事ができないため、その人たちを支援することは、長い目で見ると雇用につながる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ庁が設置されることもあり、スポーツの魅力をアピールしていきたい。砺波市からオリンピックやパラリンピックに出られるような人材を輩出できるような土台作り、スポーツや健康、高齢者、福祉で連携するしくみが無いため、しくみづくりが必要である。</li> <li>・若者が働く場がないので、婚活イベントなど支える仕組みが必要である。自分自身も空き家に移り住んだが、空き家の活用は合理的で欄間など建築様式がすばらしく、アピールしていくことが大事である。アトスペース、若い芸術家の発表の場など、盛り上げて4万人の達成を願う。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信力が砺波にないのは実感しており、PRが重要である。</li> <li>・NPOを積極的に支援し、産学官や金融を連携してぐるぐる回し、砺波の核や尖った所をみんなで共有して、じわじわ広げていくことが必要である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外から見た砺波という観点からすると、15年ほど前に砺波に観光に来た友人2人に砺波の印象をきいたところ、2人とも「チューリップ」と答え、インパクトが強いと感じた。魅力ある地域資源や特産品ということで、チューリップ以外にも観光資源がもう1つあれば良いと思う。</li> </ul>

3. 閉会	
得能委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合戦略は、次回を含め3回の委員会で取りまとめし提言することになる。その後、総合計画についての提言作業にうつります。まずは、この総合戦略が、絵に描いた餅にならないよう、チェックをしながら意見を出し合える委員会にしたいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップについては、砺波市では洪水のハザードマップ、地震の揺れやすさマップなどを広報でお知らせし、担当の係もつくってあるが、経験がないことなのでこれらが本当に機能するかは注意していかなければならない。</li> <li>・人口ビジョンは、砺波を示すところ以外は全国的にほとんど変わらないが、総合戦略では、他のまちとは違う、砺波らしい施策を打ち出さなければいけないと思っている。</li> <li>・大企業と中小企業、オープン型商店街と中心市街地の関係では色々な問題はあるが、大企業がくることにより、雇用だけでなく固定資産税、償却資産などの税金も入ってくるのでバランスをとっていく必要がある。</li> <li>・日本じゅうの人口減の街は、考える事は考え、やるべきことはやってきているはずだが、うまく機能していないし施策も知られていない。行政はもっと情報発信していかなければならないと思う。</li> <li>・究極は女性に優しい街づくりで、砺波に定着してもらうこと。また子育ての楽しさや家族のすばらしさをわかってもらえるように行政が手助けできればと思っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回第3回は、10月13日で調整し、案内させていただきたい。</li> </ul>
	<p>以上 (以下余白)</p>